

狸谷石不動たぬきだに いし ふどう

〔一乗寺村天王より長十町余にあり、行路嶮岨なり。高さ二丈深さ二丈許の石窟あり、中に石像の不動尊を安置す、長五尺許、木食上人正禪もくじき しやうぜんの立る所なり。窟の口に石の扉あり、高さ四尺許厚さ一尺余、表に木食正禪明厚と鐫す。靈驗いちじるくしてつねに詣人多し、此地四隣峭壁にして谷深し、樹林蒼鬱として白日を蔽す〕

白鳥越はくてうこえ

〔同所の東にあり、上古の往還道にして、是より叡山東坂本穴太村へ出る、名古地越といふ〕

花之谷はなのたに

〔同所の北にあり、此所に檣多し故に名とす。叡山の衆徒一夏中勤行の檣をこゝより伐出し、此辺の土人公役として山門へ送るなり〕

曼珠院まんじゆゐん

〔同所東北にあり、御宗旨天台にして山門の座主なり〕御宗派慈覚大師より相承して、天慶年中に山に於て關き給ひ、御門跡は是算法親王を初めとす。中古より寺を禁裏の側に遷れ、明暦二年良尚親王今の地に移し給ふ。〔竹内御門跡と称す〕

天満宮

〔当院後山にあり、祭神菅公、洛陽の菅大臣は此御門主兼帯所なり。当山絶景にして奇觀の地なり〕

〔むかし此所に月林寺といふ、叡山三千坊の一寺あり。日本紀略云、康保四年二月廿八日左大臣実頼公月林寺にて花を

翫び給ふ」

〔拾遺抄云、古今の作者幽仙いこうせん律師延曆寺別当に補す、拜堂の為に登山の日坂さかもと本月林寺に於て頓滅す〕

清慎公月林寺にまかりけるにおくれてまうできてよみ侍る

拾遺

昔我をりし桂のかひもなし月の林のめしにいらねば

文章生 藤原俊生

鷺さぎ杜もり

〔曼珠院まんじゆゐんの西にあり、平林にして中に社あり。祭神鬚咫すぢ天王。修学寺しゆがくじ村生土神とす。例祭は

鷺さぎ森もり／鬚ひげだ■天皇／拾玉・ひえの山は冬こそいとどさびしけれ雪の色なる鷺さぎの杜もりより 慈鎮